

鬼瓦 のルーツを尋ねて 韓国へ ⑮

前橋市 富山 弘毅

「鬼」が消える!?

2010年11月、鬼瓦探しの韓国への旅の3日目に、今回の訪韓の目的のひとつ、民間の施設・韓国古建築博物館を訪ねました。忠清南道の修徳寺（前回参照）の近くで、2005年に出来たばかりでした。

古建築博物館で



韓国古建築博物館第一展示館

到着して、タクシーが入口から入ろうとすると、小屋から男が2人飛び出してきました。進入禁止だといっているらしく、運転手とやり合いました。場外に駐車して待っていてもらうことにし、私が歩き始めると、また通せんぼされました。運転手が男たちと何事か言い合いした末、私が入場料W3,000を払い、決着しました。（後にインターネットで見たら、入場料は大人W2,000と表示してありました。?!）

男たちは「向こうの建物に行け」と指さします。大きくてどっしりした古建築が数棟あり、一番大きな第一展示館の玄関から若い女性職員が出てきました。

近づいて「アンニョンハセヨ」というと、おどろいた風で「ハングルができるのですか？ 韓国人？」「アニョ、日本人です。」

私は「チョム キダリョ ジュセヨ（ちょっとお待ちください）」と言って、第一展示館の裏側に回りこみました。その屋根に、鬼瓦と鴟尾を発見していたからです。

水牛型ではない角の鬼（鬼板）でした。



韓国古建築博物館
第一展示館 北西
鬼瓦

撮り終えて玄関から入ると、その女性説明員は待っていてくれました。「お待たせしました。日本語が話せますか」と尋ねると、「少しだけ」とにっこりしました。

韓国古建築の構造、建築技法を示す模型と写真、説明板などが並んでいました。でも、私の目はすぐ、瓦の展示棚に。

瓦業者がつくった屋根瓦のサンプルが並んでいました。「西遊記」の三蔵法師が率いる三神仙＝孫悟空、沙悟浄、猪八戒らの一行9人、蓮華文入りの鴟尾、龍頭瓦などとともに、鬼面瓦がありました。いま撮ってきたばかりの、この建物の屋根に載っている鬼瓦と同じ顔でした。



韓国古建築博物館
第一展示館内
展示サンプル
「龍面瓦」

写真に収めて、はっと気付きました。説明札に「キミョンワ」（鬼面瓦）ではなく

「ユンミョンワ」(龍面瓦)と書いてあるのです。

鬼面瓦でなく龍面瓦!

この展示館を一人で担当しているらしい女性説明員に「古瓦のことがわかりますか」と聴くと「いえ、私は建築が専門なので」と自信がなさそうでした。でも、私が展示品の鬼瓦を指して「鬼面瓦とは呼ばないのですか」と質問すると、彼女は答えました。「龍面瓦だと大学の先生に教わったので。私が説明プレートを書きました」。



韓国古建築博物館 女性説明員と展示の鬼瓦等

私は首をかしげましたが、そうか、そういう説もあるだろう…。私はなぜか、軽く聞き流してしまいました。

後で深く反省しました。——なぜ、突っ込んで質問しなかったのだろうか。どうして「鬼」ではないのか。「龍」だという根拠は? どこの大学のなんという先生の説? いつ頃のこと?

本当に大失敗でした。帰途につきながら後悔しました。そして「明日はソウルの国立中央博物館で展示を見て、しっかり確かめよう」と決めたのでした。

博物館でもEXPO図録でも「鬼」だったのに

これまで韓国では鬼瓦の説明に日本と同じ表現で「鬼面文鬼瓦」または「鬼面瓦」

などとしてきました。ソウル、慶州の国立博物館(拙文◎参照)だけでなく、扶余博物館の「鬼形文磚(きけいもんせん)」(同⑦)でも「鬼」の字を使っていました。

04年に訪韓した際、知り合った慶州の威徳大学教授で同大学博物館長の朴洪国博士のおかげで入手できたのが「瓦・新羅瓦磚」(慶州世界文化エキスポ2000での展示カタログ)でした。



면와 綠釉鬼面瓦 Roof tile with monster-mask design, green-glazed earthenware / 統一新羅 / 너비 30.0cm, 현재높이 22.5cm, 두께 5.7cm / 國立慶州博物館 / 圖 1384

図録「瓦・新羅瓦磚」(2000年)より。「綠釉鬼面瓦」統一新羅 雁鴨池出土 国立慶州博物館。Roof tile with monster-mask design.

其のカタログには、例えば、上記のように慶州・雁鴨池出土の統一新羅時代の逸品を「綠釉鬼面瓦」としており、「鬼」表記が普通です。それが変わろうとしているのです。

中央博でも「鬼」が消えた!!

さて翌日、韓国国立中央博物館(前・国立ソウル博物館)を見学しました。案の定、中央博物館の展示鬼瓦の説明札はみんな「龍」や「怪獸」に変わっていました。



2010 韓国中央博物館展示 高句麗三國時代5~6C「怪獸面文円瓦当」(04年の説明札の表記は「鬼面文丸瓦」) 拙文◎掲載



2010 韓国中央博
示 南北朝時代 統一新
羅 雁鴨池「緑釉怪獣面
文瓦」
（04年の表記は「鬼面
瓦」⇨拙文◎掲載）

有名な井内功氏寄贈の古瓦は、数は相当少なくなっていたものの1室とって展示されていたのですが、表記が変わりました。



2010 韓国中央博
展示 井内功氏寄贈
統一新羅「龍面瓦」
（04年には「鬼面
瓦」=拙文◎。英文
説明もMonster-
MaskがDragonに）

なぜ、酷似しているのに上の瓦が「怪獣」に変わり、下が「龍」に変わったのかも、不思議でなりません。



2010 韓国中央
博展示 井内功氏寄
贈 統一新羅「怪獣面瓦」
（04年には「鬼面
瓦」⇨拙文◎）



2011 韓国中央博
展示 柳昌宗氏寄贈
南北朝時代 統一
新羅「怪獣面瓦」



2010 韓国中央博展示
南北朝時代 統一新
羅 雁鴨池「獅子文
金銅門扉環」

なぜ、左上の瓦が「怪獣」で右上が「獅子」になったのかも、わかりません。

とにかく、鬼瓦はたくさん展示されていても、「鬼面瓦」どころか「鬼瓦」、いや「鬼」という文字が見当たりません。04年当時の説明札の「鬼」が「怪獣」や「龍」「獅子」に書き換えられているのです。

「鬼」の文字が消えてしまったのです。私は思い出しました。あのとき、朴博士が私に「オニは龍だという説がある」と語ったのです。軽い気持で聞き流したことが悔やまれます。そのときは少しだけ気になったものの、すっかり忘れていたのです。

考えてみると、私たちがなじみにしている立体的な鬼面文鬼瓦は、日本で独自の発展をしたもので、韓国の鬼瓦はあまり立体的でなく鬼板というべきものです。朴博士も「慶州の鬼瓦の中には、日本のような立体的なものはない」と言っていました。

しかし、立体的であるか否かにとどまらず、それが「鬼」であるか否かが問われているのです。

韓国文化の「自主独立」化か

韓国で「鬼」といえば死者の靈魂の現われ方を示す概念のようです。

祖先の靈は尊いものでもありますが、時としてこの世に未練や恨みを抱いて死んだ人もあって、「気味が悪い」場合もあります。

しかし、仏教の「地獄の鬼」や日本の鬼とは全く異なるようです。

だから、棟端瓦や隅瓦に「鬼」の文字をつけるのはふさわしくないという考えが生まれても、不思議ではないでしょう。

想像するに、これまでは日本流の表現を無批判に取り入れてきたことを、韓国の学者・学会が検討、研究の結果、「鬼」「鬼面」「鬼瓦」の表現が韓国の人々にとってはふさわしくないという結論を出したのではないのでしょうか。

日韓併合100年。文化面での自主独立も確実に進行しているのだろうと推測して、なんだか納得した気分になりました。

同時に、いやいや、もっと確かめなけれ

ばならないぞとも思いました。「鬼瓦」が「鬼瓦」でなくなるとは、大事件です！

でも、この変化はまだ、韓国古建築博物館と国立中央博物館で確かめたに過ぎない、一番多くの鬼瓦を所蔵している国立慶州博物館をはじめ、各地の博物館の展示も変わったのだろうか、韓国に「鬼瓦学会」とか、権威ある「鬼瓦研究グループ」のようなものがあるのだろうか。この変化は「学会」で統一されたものなのだろうか…。

少なくとももう一度訪韓して、この目で各地の展示を確かめよう、学者の見解も聞こうと決めました。

世界鬼学会の会報で報告

次の訪韓の前に、「世界鬼学会」の会報に寄稿するチャンスがありました。

この学会は、酒吞童子（しゅてんどうじ）の伝説で有名な大江山のある京都府大江町（その後、福知山市に合併）が「ふるさと創生基金」でつくった「日本の鬼の交流博物館」に事務局を置いています。そして毎年、総会と併せて「鬼シンポジウム」や民俗学、仏教学などの学者・研究者の講演会などを開き、年度末に会報を発行しています。会員は数百人で、外国人もいます。

その会報・第15号（2011年3月発行）に、私は「鬼をたずねて百万里」と題する連載を始めましたが、合わせて「鬼探しの旅 余話 韓国の「鬼瓦」表記に変化」という小文を載せました（写真下）。



さらに、その「会報」などを先述の朴洪国・慶州威徳大学教授に送りました。そして2011年10月、韓国南部を歩くこととなります。国立慶州博物館の鬼瓦展示プレートが書き換えられているか、国立光州博物館ではどうか、学芸員にもあって話を聴きたいと思ったのです。

さらに、かつて釜山に日本人居留地があったことから、建築に関しても日本の影響を特に強く受けたであろう韓国南部で、日本流の鬼瓦に酷似したものが見つからないものか、足で確かめかけたからです。

【余話】屋根の上の鬼龍子^{きりゅうし}

中国では鬼瓦は鬼龍子^{きりゅうし}と呼ばれます。ほとんどが龍で、鬼はいません。人物様のものが並んでいる例もよく見かけます。前後に龍を従えた三蔵法師一行です。



ソウル 昌徳宮 進善門の鬼龍子

遠くて顔かたちがハッキリしなかったのですが、このたび韓国古建築博物館の展示サンプルでお目にかかれまして。



韓国古建築博物館 展示瓦サンプル 三蔵法師一行
(右から) 三蔵法師、孫悟空、沙悟淨、猪八戒ら (つづく)